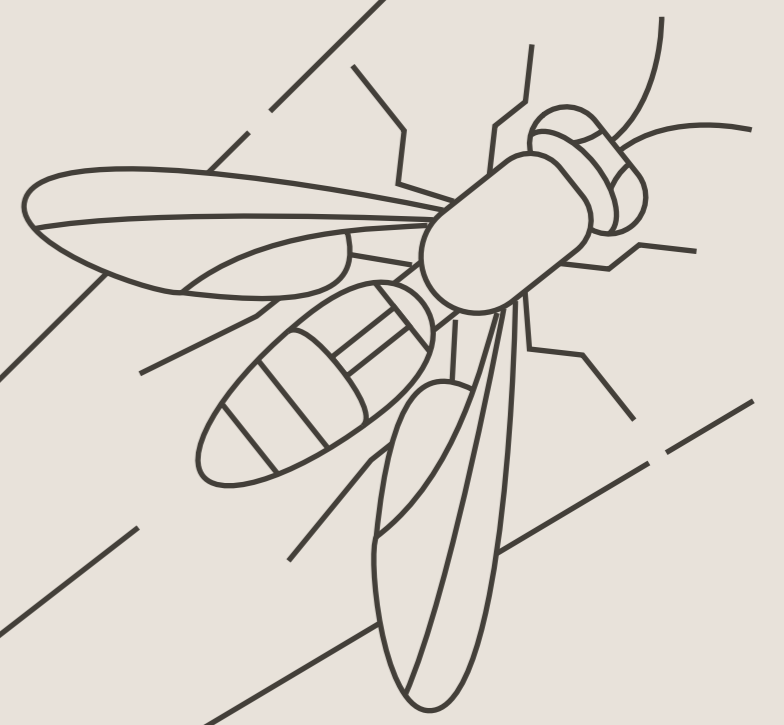
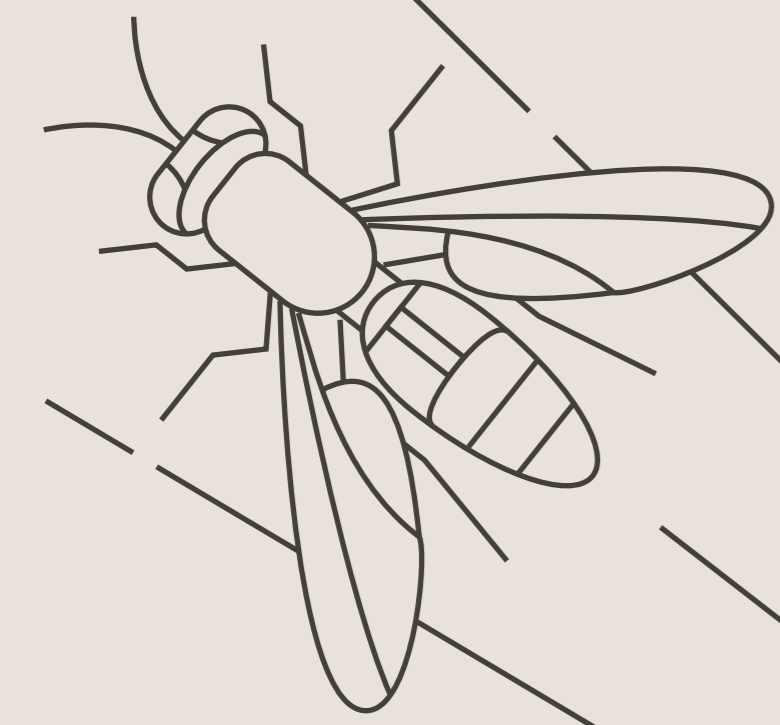


水産における **昆虫** の飼料利用の 現在と未来



参加
無料

近年の魚粉価格の高騰は、国内の魚類養殖産業を一層厳しいものにしていく。魚粉の植物性原料への置き換えが積極的に進められているが、植物性原料の多くは輸入品であり、安定的確保について懸念が指摘される。特に大豆粕は90%以上が輸入品である上、今後の代替肉産業の活発化や地球温暖化による収量減少などに伴い、価格が高騰する可能性がある。一方で、国内の食品加工の現場では、多くの副産物や残渣が発生しているが、焼却や堆肥化に回されているものが多く、有効活用されているとは言い難い。このような副産物・残渣は、ミズアブやミールワーム等の昆虫の餌料として好適であり、これらの昆虫をコンバーターとして、副産物・残渣を、価値の高い動物性飼料原料に転換すれば、食料生産における新たな資源循環を生み出すことができる。

本シンポジウムでは、ミズアブやミールワーム等を中心とし、水産・畜産における昆虫の飼料利用に関する最新の研究事例を報告すると共に、国内の飼料用昆虫産業を牽引するキーパーソンを総合討論でお招きする。昆虫の飼料利用における技術的課題や社会制度等の現在地を整理しつつ、実践的な研究や社会実装から見てきた未来の食料生産への昆虫飼料の貢献の可能性を議論する場としたい。

Ⅰ 昆虫飼料の社会実装に向けた基礎

- 『新規飼料原料の実用化に向けた国内外の動向とルール形成』 藤谷 泰裕 (大阪環水研)
『腐食性昆虫アメリカミズアブの生物特性と家畜化』 霜田 政美 (東大院農)
『ミズアブのゲノム解析と利用』 小林 徹也 (農研機構)
『昆虫飼料の魚介類に対する生理学的機能とその利用』 三浦 猛 (愛媛大農)

Ⅱ 昆虫の飼料利用の現在地～水産と畜産の現場から

- 『マダイにおけるミズアブのタンパク質の同化について』 安藤 忠 (水産機構)
『ミズアブを給餌した魚類の脂質について』 石原 賢司 (水産機構)
『ミールワームを用いた水産養殖用飼料の開発』 井戸 篤史 (愛媛大農)
『昆虫の家畜用飼料としての効果』 川崎 淨教 (香川大農)

Ⅲ 総合討論

ファシリテーター: 生田 和正 (水産機構)

パネリスト: 上内 厚子 (株)エルメティア / 中野 江一郎 (株)生物技研 / 井戸 篤史 (株)愛南リベラシオ

日時: 令和5年 **3/28 (火) 10:00~16:00**

会場: **東京海洋大学品川キャンパス**

(東京都港区港南4丁目5-7) Web 配信もいたします

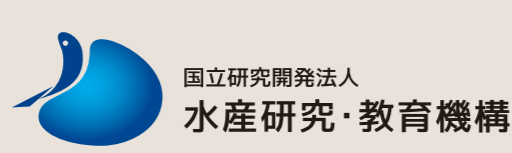
jsfs-insect.com



Web視聴申込



主催・日本水産学会



企画責任・安藤 忠



企画責任・三浦 猛

一般の方でもご参加いただけます。当日、会場まで直接お越しの方は事前申込不要です。Web 配信の視聴をご希望の方は、事前に上記 Web サイトよりお申込みください。※Web 視聴には定員がありますので、申込者が定員に達し次第、締め切らせていただきます。